オペレッタを観劇して、

ヨーロッパ文化を身近なものに

昨年に引き続き、今年も日本人ソプラノ歌手岩元悠美さんが出演するオペレッタ*の公演があります。今回の作品は、彼女が主役で登場する「ワルツの夢」（オスカー・シュトラウス作曲）です。素敵な音楽とともに、歌声に魅了されてベルギーでのクラシックを味わうのはいかがでしょう。フランス語の歌ですが、あらすじを読んでから行けば、大筋は理解できます。日本では味わえない、本場の文化に浸ってみましょう。

＊ 台詞と踊りのあるオーケストラ付きの歌劇
愛をテーマにしたものが多く、最後はハッピーエンドで終わることが多い。

あらすじ

時は1907年。ウィーンの舞踏会でフランスの陸軍中尉モーリス・フォンセギューが、スノビー王国の継承者ヘレーヌ姫（岩元悠美）を従妹だと勘違いし、首筋にキスをする。スキャンダルを避けるため、フォンセギューはヘレーヌと結婚する羽目に。ヘレーヌは幸せいっぱい、フォンセギューはがっくり。もともと遊び人の彼は情事を夢見て、どうしたらこの結婚から逃げられるかを頭に巡らせる。

第1幕

ヘレーヌとフォンセギューの結婚式。ヘレーヌの父、スノビー王国君主ジョアキン7世の努力むなしく、式は予定通りには進まない。フォンセギューはスピーチの際に、スノビー王国は陽気さが足りない、と失礼なコメントをしたあげく、ジョアキンの甥、ヘレーヌの従兄であるロター王子と小競合いをやめない。ロターは自分こそがヘレーヌに相応しく、フォンセギューのような単なる中尉は相応しくないと考えているのだ。フォンセギューはどうこの結婚をなかったことにしようかということばかり考えて、ジョアキンに自分には家系を絶やさないための男としての能力がない、とジョアキンに打ち明ける。ジョアキンはショックに打ちのめされるが、同時に疑わしいと思う。結婚初夜、ヘレーヌは胸をときめかせているが、フォンセギューは頭痛を訴え、お休みなさい、と冷たく去っていく。しかし、実はフォンセギューは悪友ムッシーと夜の街に繰り出したのだった。

第2幕

夜、コンサートレストランの中庭でフォンセギューは、ウィーンからきたオーケストラの美しい女性指揮者フランジと出会い、すぐにお互いひかれあう。しばらくしてそこにジョアキン7世と一緒にロターが現れ、ほどなくして夫を探してでてきたヘレーヌとおつきのフレデリックが現れる。意せず一同に会してしまった夫婦と家族は驚きを隠せないが、そこにフランジ率いるオーケストラの奏でるウィンナーワルツが流れ出し、フォンセギューは妻の手を取り踊りだす。フォンセギューが自分以外の女性と踊っているのを見たフランジはすぐかっとなり、無理やりフォンセギューと踊りだすが、結婚を祝う人々の歌によって、恋するフォンセギューはヘレーヌ姫の夫だということを悟る。

第3幕

ヘレーヌはフランジを王宮に呼び寄せ、夫を惹きつけるような魅力的な女性になるためのレッスンを受けている。フォンセギューは夜の鉢合わせ以来、このまま結婚が続くのか、フランスに送り返されるの分からないまま過ごしていた。ヘレーヌはフランジのレッスンのおかげでどんどん魅力的な女性へと成長し、フォンセギューは自分の妻についに恋をする。フランジは二人の幸せを見届け、自分は身を引き、また放浪の旅に出るのであった。

日時：12月31日（土）18h、1月8日（日）15h
場所：Salle Jules Bastin
Rue François Libert 28, 1410 Waterloo
料金：大人€24、シニア€22、学生€20
日時：1月29日（日）15h
場所：Centre Culturel d'Auderghem
Bd de Souvrain 183, 1160 Auderghem
料金：大人€24、シニア・26歳未満€22
10人以上のグループ€15/人
日時：2月12日（日）15h
場所：Centre Culturel d'Uccle
Rue Rouge 47, 1180 Uccle
料金：大人€24、シニア・26歳未満€22
10人以上のグループ€15/人

その他の都市、日程などは下記のウェブサイトをご覧ください。
www.lacameralirica.be/LACAMERALIRICA/FR/prochain_spectacle/reve_de_valse